

# 地震学会 2008 年度秋季大会報告

大会・企画委員会

## 1. 概要

2008 年度の秋季大会は、日本地震学会 60 周年記念事業の一環として、第 7 回アジア国際地震学連合 (Asian Seismological Commission) 総会と合同で開催されました。正確には、初日 (11 月 24 日) は日本地震学会のみで、日本語セッション (口頭発表、ポスター発表) 【平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震、日本における強震動予測、日本における地震予知研究と今後の課題、最近の日本の被害地震、地震一般】、若手学術奨励賞記念講演、記者向け懇談会が開催され、2-4 日目 (11 月 25-27 日) は、合同セッションとして英語での発表 (口頭発表、ポスター発表) が開催されました。

初日の日本語セッションは、口頭発表は 3 会場を使い、ポスター会場も 2 会場を使いましたが、全体の発表数が 93 編 (うちポスター発表 45 編) であったため、会場をゆったりと使うことができました。若手学術奨励賞記念講演は、平原会長から受賞者・受賞理由の説明のあと、宮澤理絵氏が「深部低周波微動の動的トリガリング」、中島淳一氏が「沈み込み帯におけるマグマ生成上昇過程の地震学的研究」、加藤愛太郎氏が「稠密観測による内陸地震震源断層への応力集中過程」について講演されました。900 名程度収容できる大きな会場であったため、見ただけでは空席が目立ちましたが、実際には 300 名程度の聴衆が集まりました。今回からの新しい試みとして、若手学術奨励賞受賞講演についても、予稿を書いて頂き、予稿集に掲載しました。

初日の発表は、口頭・ポスターともに最近の被害地震に関する発表が多く、報道機関などの研究者以外の方の参加も多く見られました。

## 2. プログラム編成

今回のプログラム編成は、日本語セッション (第 1 日) は大会・企画委員会が、英語セッション (2-4 日) は ASC プログラム委員会がそれぞれ担当しました。日本からの投稿者に限ってみると、約 8 割が英語 (合同) セッションへ投稿され、日本語 (初日)

のセッションへの投稿は 2 割足らずでした。その結果、合同大会については約 7 割が日本からの投稿という結果になりました。合同セッションに多くの発表申し込みをいただいたことにより、ASC との合同大会である意義を確認しつつもやや困難が伴うプログラム編成となりました。

まず特筆すべきことは、投稿システムの刷新により、プログラム編成作業の負担が軽減されたことです。以前は委員が半日会議室に缶詰になり、郵送された予稿をその場で読んでプログラムを組んでいくという過酷な作業でした。新しいシステムでは委員は予稿 PDF をネット上で閲覧することができます。そこで、電子メールで情報交換しながら、各自が自分の職場で編成を行い、それをまとめる形で編成を進めました。まとめ、確認と調整は複数の世話役で担当し、最終的に大会・企画委員会の会合での承認を受けました。新しいシステムにより、集まってその場で相談をするメリットは失いますが、委員一人一人の負担を軽減することに成功したと思います。

英語セッションでは、ASC 恒例の Plenary Session と会場使用時間の厳しい制限のために、一般口頭発表の時間が限られることになりました。今回は、快適なポスター会場を準備していただいたことを考え、発表数としてはポスターに重心を置き、また、口頭では一人あたりの発表時間を長くする、休憩時間を長くとる、という方針を取りました。結果として、すべての口頭発表希望にはこたえられませんでした。十分な質疑の時間を確保しながらも、会場の時間制限を超過することは避けられました。また、ポスターを事前に確認する機会が増えたことで、コアタイムを内容の議論に有効に使うことができ、ポスター発表者にも利益があった設定ではなかったかと考えています。

口頭発表への採択では海外からの参加者や大学院生などの若い世代に対して配慮をしましたが、事前連絡のないキャンセルが複数あり、間延びしたセッションもありました。キャンセル枠を別の方の口頭講演に回すなどの措置を念頭において最終的な参加

者予定者名簿と照合するなどの努力が不十分であったと反省しています。内容面でも日本語セッションと英語セッションの双方で大きく重複する内容の発表があった、アジアからの参加者の発表に質のばらつきがあった、など予稿だけで判断する難しさを感じました。

### 3. 投稿システム

今大会より、講演申し込みのシステムが更新されました。従来は、著者名や講演タイトルのみをウェブサイト上で登録し、予稿についてはカメラレディー原稿を事務局へ郵送する方法が取られてきましたが、全てをウェブサイト上で登録する方法に改めました。より具体的には、著者は事前にウェブサイト上でユーザー登録を済ませておき、その際に取得したユーザーIDとパスワードを使用して講演申し込みと予稿原稿のアップロードを行うという方法です。このシステムの導入に関する周知と申し込み方法の説明は、ニュースレター誌上とウェブサイト上の簡単な記事のみでしたが、大きな混乱もなく、ほとんどの講演を無事に受け付けることができました。このシステム更新によって、投稿とそれを処理するプロセスが簡便化されただけでなく、「従来よりも予稿原稿の印刷が鮮明になって良かった」というお声もいただきました。一方で、講演情報の修正や予稿原稿の差し替えといったオプション的な操作についての説明は、必ずしも十分ではありませんでした。この点につきましては、ご不便をおかけした方々のご意見を踏まえ、操作説明の追加などの情報提供に努めてまいります。

### 4. その他

国際学会であることを感じた一つが口頭発表終了後の拍手です。粛々と進行するいつもの地震学会に

比べると、拍手のある会場は暖かさと活気を感じました。今後の連合大会、秋季大会でも拍手をする習慣が続くことを望みます。

ほとんどのセッションが英語という特殊な条件の大会でしたが、会員の皆様に積極的にご参加頂きましたことを厚くお礼申し上げます。大会・企画委員会では、今後も大会において健全で活発な議論がなされ、地震学のさらなる進展につながるよう、よりよい大会運営を目指して検討していきます。会員の皆様にも、積極的なご協力をよろしくお願い致します。

### 5. 大会プログラム修正等（全日程）

- ・追加（申込受付時の手違いで予稿印刷に間に合わなかったもの）

X3-116 Discriminating Earthquake and Explosion in the Korean Peninsula

#Myung-Soon Jun and Il-Young Che (KIGAM)

X3-117 Explanatory Model for Relaxation Oscillation Observed by Strainmeter at KMU

#Tetsuo Takanami (Hokkaido University) and I. Selwyn Sacks (Carnegie Institution)

- ・事前キャンセル

C12-04, B32-08, C32-02, D32-07, A41-07, A42-05, C42-03

X1-004, 015, X2-058, 100, Y3-219

- ・当日キャンセル

A41-08, B32-04, C22-03, 08, 09, C32-09,

X2-003, 004, 007, 017, 020, 024, 031, 067, 070, 072,

075, 078, 079, 082, 083, 093, 097, 099, 101, X3-020,

025, 027, 032, 051, 060, 081, 083, 084, 094, 109, 110,

112, 113, Y3-205, 210, 211, 212, 216, 220, 225, 226,

227, 230, 236, X4-011, 025, 049, 052, 068, 070, 071,

074, 075, 082, 083, 086, 087, 088, 090, 092, 098, 102,

103, 105, 106, 107, Y4-216, 219, 221